

# 徳法寺

## 共生

杉谷 淨

地球が誕生したのは今からおよそ四十六億年前です。その二億年後、遺伝子を破壊してしまう太陽からの強力な紫外線が届かない深海で、無機物をエネルギー源とする生物が生まれました。海底の噴火口から出る硫黄やメタンをエネルギーに変えるアーキア（古細菌）や、水素や鉄の酸化（燃焼や錆）や太陽光をエネルギーに変えるバクテリア（真正細菌）です。

二十億年前頃、アーキアやバクテリアの死骸である有機物をエネルギー源とする単細胞生物や真菌類（カビ・キノコ・酵母など）のような原始的な真核生物が、バクテリアの遺伝子をアーキアが取り込むことで生まれます。彼らはシアノバクテリア（光合成細菌）によって濃度が上昇した酸素に二つの方法で対応していきます。私たちは酸素という有益なものと考えがちですが、多くの物質を酸化（＝老化）させてしまう、生命にとっては毒物なのです。対応方法のひとつは、細胞内に発生した活性酸素を分解する酵素（SOD）の獲

得です（人体内には三種のSODがあり、老化を防止しています）。もう一つの対応方法は、酸化によってエネルギーを作り出すバクテリアの遺伝子を自分の細胞内に取り込み利用するという方法です。人間の細胞内にもあるミトコンドリアはその時取り込んだバクテリアの遺伝子です。さらに一部の真核生物は、シアノバクテリアの遺伝子を取り込むことで光合成を行えるようになります。これが植物です。また、積極的に栄養源を取り込むために運動能力を発達させていった真核生物も現れました。これが動物へと進化していきます。

海中からあふれ出た酸素により大気中の酸素濃度が上昇すると、やがてオゾン層ができました。

これによって生物に有害な紫外線が地上に届かなくなり、約四億五千万年前、ようやく地上に進出する生物が現れました。その生物は地衣類であると言われています。地衣類とは一つの生物ではなく、シアノバクテリアと真菌類の共生体です。シアノバクテリアが光合成によって作り出した糖アルコールを真菌類が吸収してエネルギー源とする代わりに、真菌類はシアノバクテリアに棲息できる場所を提供しているのです。地衣類は砂漠のような極端な環境にでも対応し、世界で約二万種、日本でも約千八百種も確認されています。植物も根から直接栄養を取っているのではなく、根を覆っている真菌類の菌糸から栄養を供給されているのです。このような関係を共生関係と言います。

私たち人間は三十兆個ほどの細胞でできていますが、体の中に約四十兆個もの細菌が住んでいま

す。これらの中には、虫歯の原因であるミュータンス菌や歯槽膿漏を起すジンジバリス菌のような菌もいますが、ビフィズス菌のように腸で消化を助けてくれる細菌も沢山います。また、胃で消化を助けてくれる酵母や水虫の原因となる白癬菌などの真菌類も多く住んでいます。近年「人間とは、ヒトの細胞と微生物とが高度に絡み合った集合的有機体とみるのが適切だ」とまで言われています。さらに、約三百八十兆個ものウイルスも体内にいます。帯状疱疹などを起こすヘルペスウイルスは聞いたことがあると思います。近年、哺乳類の胎盤はレトロウイルスの遺伝子がなければできなかつたことも分かってきました。

最近何かと悪役扱いされるウイルスや細菌ですが、私たちは彼らと共生関係にあることも知っておいてください。



徳法寺の坪庭にいる地衣類

# 日本の神々と仏 2

杉谷 淨

今回は「日本の神々と仏教」の二回目です。

聖武天皇が、全国に国分寺・国分尼寺を作るように命じたことで、神社側に仏教との共存を図る動きが起ります。最初に動きを見せたのは、神々の中でも筆頭的存在であった宇佐八幡宮（大分県宇佐市）でした。天平勝宝元年（749）、宇佐八幡宮の禰宜尼が東大寺大仏礼拝を行い、宇佐八幡神が天神地祇を率いて大仏建立の協力を申し出たことを聖武天皇に伝えたのです。これにより八幡神は仏教の守護神八幡大菩薩として全国に建立されていきました。国内には八万八千社の神社がありますが、その約半数は宇佐八幡宮を本社とする八幡神社です。この「神は仏法を悦び、仏法を擁護する」という神々の在り方を「護法善神」と呼びます。天平神護元年（765）に発せられた詔の「神等をば三宝（ほとけ）より離れて触れぬ物ぞとなく人の念（おもひ）である、然れども経を見まつれば、仏の御法（みのり）を護りまつり尊みまつるは諸の神たちにいましけり」がこの関係を表しています。

これとは別に「神も一個の衆生であり、仏法によって苦悩をまぬがれようとする」という「神身離脱」と言われる関係も生まれました。奈良時代から平安初頭にかけて、各地の神社に神のために僧侶が仏道修行する神宮寺が建てられます。このように神

のために寺や仏像を作ること「法楽」といいました。この事例は中国の『高僧伝』『続高僧伝』にもみられることから、日本もこれに倣ったものと思われまます。奈良時代だけでも越前氣比神社・若狭比古神社・伊勢神宮・鹿島神宮など全国の神社に神宮寺が作られています。

越前氣比神宮に神宮寺が建立された由来は『三代実録』という書物に書かれています。これによると、越前氣比神宮の氣比神が「吾が為に寺を造りて吾が願を助済せよ、吾れ宿業に困り神と為ること固より久し、今仏道に帰依せんと欲して福業を修するに因縁を得ず、故に來りて之を告ぐ」と仏教に帰依したので寺を作るように願い出たというのです。

似たような由来書が、近江国能州郡奥嶋の嶋神社や、若狭国遠敷郡若狭比古神社、伊勢国桑名郡多度神社、近江国能州郡の随我大神神宮などにも伝わっています。神社に併設される形で建立されていた神宮寺ですが、次第に僧侶が神社を支配下に置くようになります。こうして、仏が神々より優位に立つようになりましたが、神社側からの反発は見られませんでした。

僧侶が朝廷で権力を持つようになる中、神護景雲三年（769）、宇佐八幡宮より称徳天皇に「道鏡が皇位に就くべし」との神託があったとして、法王であった僧侶の道鏡が天皇に即位しようとした「宇佐八幡宮神託事件」が起ります。道鏡の野心を阻止して即位した光仁天皇は、このような混乱を避けるために、王統の継承を決める神事に僧侶が関わることを禁じます。さらに、皇祖神を祀る伊勢神宮の

神宮寺を神域から移動させ、僧侶が二之鳥居より内に入ることを禁じたのです。ただし、この後も多くの伊勢神宮の神官が退職後出家しており、退位後出家して法皇となる天皇もいましたから、仏教を排斥したわけではなく、朝廷が仏教に過度に依存することを避けることが目的でした。

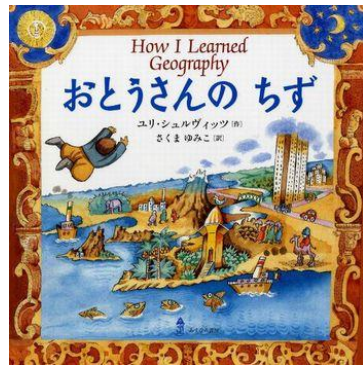
平安時代になると「本時垂迹」（ほんじすいじやく）と言われる「実は神々と仏は同じものである」という考え方が広がっていきます。続きは次回で。



宇佐八幡宮（大分県宇佐市）

# 本の紹介

杉谷 登紀子



作・絵 ユリ・シュルヴィッツ

訳 さくま ゆみこ

あすなる書房 二〇〇九年

アメリカで最も優れた絵本に与えられるコルデコット賞を三度も受賞し、日本でも「よあけ」「ゆき」などで親しまれているユリ・シュルヴィッツの自伝的内容の絵本です。

一九三九年、ナチスドイツがポーランドへ侵攻し、四歳のユリの一家は難民となり、トルキスタン（現・カザフスタン）で暮らすことになりました。夏は暑く、冬は寒く、土の上で寝て、いつも食べ物に困る生活でした。ある日、わずかばかりのお金を手に市場へパンを買いに行ったおとうさんが持ち帰ったものは、パンではなくたった一枚の大きな世界地図でした。「ひどい、ゆるせない。」と怒りを感じました。翌日、壁に地図を貼ると思いがけないことが起

こりました。暗かった部屋に色があふれ、生活が一変しました。ひとたび地図を眺めれば、地図に書かれた見知らぬ街の名前で詩を作り、呪文のように唱えて遊ぶことができ、空想の中で灼熱の砂漠に降り立ち、極寒の雪山に登り、果樹園で南国の果物を好きなだけ食べて、ひもじいことも貧しいことも忘れることができ、魔法のような時間を過ごすことができました。ユリはパンを買わなかったおとうさんを許し、つぶやきます。「おとうさんはただしかったのだ」と。



作・絵 ユリ・シュルヴィッツ

訳 原田勝

小学館 二〇二〇年

ユリ・シュルヴィッツは、多くの絵本の他に自叙伝も発表しています。亡くなる前に彼の父が作った、戦争中の記録の冊子と自分の記憶をもとにしています。日本では、ユリという名前がお馴染みですが、本当はウリ (Uri) で、誕生後、ワルシヤワの آپルトの家の花模様の壁紙を見つめていたことから、聖書の芸術家にちなんでいます。ユダヤ人だったユリの一家はナチスドイツの侵攻後にポーランドを脱出

して、ソ連（現ロシア）に向かいますが、ユリの名前が反体制派の詩人に由来するものと誤解され、市民権を得ることができず、北方のユーラ居留地で囚人のような生活を送ることになってしまいました。

一九四一年にドイツがソ連に侵攻すると、ユリたちはトルキスタンへ貨物列車で二か月以上かけて移動しました。絵本で描かれていたように食べ物がなく、苦しい毎日でしたが、母親の語る物語が「心の栄養」となり、どんなときでも絵を描くことをやめませんでした。戦後も苦難は続きます。移動許可証も切符もないので、駅で寝泊まりしながら貨物列車を乗り継いで、やっと故国に戻ります。ところが、ユダヤ人への迫害は厳しく、数カ所の難民収容所で過ごした後、親戚を頼ってパリで暮らすようになります。この間に、ユリも母も重い病気にかかったり、父と離れ離れになったりもしました。一九四九年、イスラエル建国後に移住し、一九五九年に美術の勉強をするためアメリカに移り、現在に至ります。

チャンスという言葉には「好機」「機会」の他に「偶然」という意味があります。もし、ソ連の市民権をもらっていたなら、ドイツがソ連に侵攻した時にナチスに捕らえられ、ポーランドに送り返されていたでしょう。故郷に戻ると、親類や知り合いはほとんど収容所に送られて亡くなっていたので、一家三人が生き延びることができたのは、まさに「偶然」としか言いようのないものでした。

二十一世紀の今日でも、終わりの見えない戦争が続いています。どうしたら、戦争のない世界を作ることができるのでしょうか。

# 徳法寺からのご案内

## 心の相談室

毎月第四土曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町商店街にある「いちよう館」二階にて真宗大谷派の僧侶による「心の相談室」を開いております。個室で相談をお受けします。仏事はもちろん、家庭や職場、学校など、どのようなお話もお聞きします。相談は無料です。予約も必要ありません。相談内容は一切外に漏れることはありませんので、お気軽にお訪ねください。

## サンガ茶話会

毎月第一木曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町にある東別院敷地内「真宗会館」一階囲炉裏の間にて「心の相談室」スタッフによる「サンガ茶話会」を開いております。座談形式となっております。僧侶やその場に集まった方々とお話しませんか。いろいろな方に聞いてほしい話、聞いてみたい話がある方はお気軽に参加してください。他の参加者の話を聞いていただけでも構いません。参加は無料です。予約も必要ありません。出入りも自由ですので、途中参加、途中退室でも大丈夫です。お茶とお菓子を用意してお待ちしておりますので、お気軽にご参加ください。

# 徳法寺 仏教入門講座

毎月二十一日午後七時半より

講師 徳法寺住職 杉谷淨

- 五月 足利仏教 一 南北朝時代
- 六月 足利仏教 二 足利幕府と応仁の乱
- 七月 足利仏教 三 戦国時代

今年から、足利時代に入ります。鎌倉幕府を滅ぼした後醍醐天皇ですが、討幕の功労者である足利尊氏との間に権力争いが起こったことで、後醍醐天皇による「建武の新政」は数年で終わりを迎えます。これ以降、南北朝時代と言われる複数の天皇が同時に在位する時代がしばらく続くこととなります。

足利氏は幕府を京都に開きましたが、一度自由経済を覚え自立し始めた各地の勢力を統一することは出来ませんでした。武家や豪族だけではなく、全国に市場や惣などの村組織が生まれたことで、庶民の間でも独自の決まりが定められるようになります。戦国時代に入ると、身分社会の崩壊が加速されます。土地を持たない商人や職人たちが力を持ち、戦乱が続く中で傭兵組織までも生まれてきます。従来の価値観が大きく変化していく中で、宗教も民衆が主導していくことになりました。

参加費はお賽銭のみです。どなたでもお気軽にご参加ください。

# 徳法寺報恩講案内

六月九日(日)

午後一時より 正信偈のお勤め

草四句目下「弥陀成仏のこのかたは」次第六首

午後一時半より 法話 幸村明氏

「真宗大谷派金沢災害支援ネットワーク」相談役、「ビハラーかなざわ」副会長を務めておられます。

午後三時より 一人芝居 河除静香氏

かわよけ

「顔面動静脈奇形」という難病を持ちながら、見た目に症状があることが苦にならない人生、笑顔の明日を目指して活動なさっています。

2024年徳法寺報恩講のご案内  
開催日 6月9日 日曜日

午後1時より 正信偈のお勤め  
草四句目下「弥陀成仏のこのかたは」次第六首

午後1時半より 法話 幸村明氏  
幸村氏は「真宗大谷派金沢災害支援ネットワーク」の相談役と、末期がん患者に寄り添う「ビハラーかなざわ」の副会長を務めておられます。  
また、毎月第3水曜日には、御自分で認知症の方や在宅療養中の方、または健康や介護に関心のある方たちの集いの場「いらしての会」を開かれています。

午後3時より 一人芝居 河除静香氏  
河除氏は、鼻と上唇に変形がある「顔面動静脈奇形」という難病を持って生まれました。  
2011年に『Sailey Tomorrow ~ 北窓から見た目問題を考える ~』を立ち上げ、見た目に症状があることが苦にならない人生、笑顔の明日を目指して交流会やイベントを開催しておられます。2014年からは「見た目問題」を題材にした一人芝居を始め、その様子がメディアに取り上げられています。  
活動のテーマは「幸せ発信」です。

例年通り、今年も社会福祉法人「ひびき」が、お茶・ワーマン・書籍などの販売をいたします。

表題揮毫 中田 八千代

徳法寺 石川県金沢市野町二丁目三二番四号

TEL 076(241)5219

ホームページ <http://tokuhou-ji.com>